

城郭に関する用語集

◆城全般

用語	よみかた	解説
縄張	なわばり	城の設計のこと。
曲輪	くるわ	城を構成する区画のこと。城の中心の曲輪を本丸、それに続く曲輪を二の丸、三の丸という。
梯郭式	ていかくしき	本丸の二方や三方を二の丸が取り囲む縄張。
平山城	ひらやまじろ	平野の中にある低い山や丘陵などに、周辺の平地を含めて築かれた城のこと。
虎口	こぐち	曲輪の入口のこと。
平入虎口	ひらいりこぐち	直線的に入れる形状の虎口のこと。
柵形	ますがた	虎口を石垣や土塁で囲まれた四角形の広場としたもの。
土塁	どるい	古くは土居（どい）と呼ばれた。土居の中でも堤防状に盛り上げたものを土塁と呼ぶ。

◆石垣関連

用語	よみかた	解説
礎石	そせき	建造物の土台（礎）となって、柱などを支える石のこと。
介石	かいいし	石垣の築石と築石の間に入れる栗石よりやや大きめの石のこと。
根石	ねいし	石垣などでいちばん下に積む礎石のこと。
輪取り	わどり	石垣の力を内側に集中させることによって石垣が前に倒れにくくするため、石垣の水平方向に緩やかなカーブを描くこと。

◆建造物

用語	よみかた	解説
隅櫓	すみやぐら	城郭内に防御や物見のために建てられた建築物で、防備的に重要な箇所である本丸や二の丸などの隅部にあるもの。
辰巳櫓	たつみやぐら	東南方向にある隅櫓。
多門櫓	たもんやぐら	城郭内に防御や物見のために建てられた建築物で、城壁の上に長く続く櫓のこと。渡り櫓、長屋ともいう。多聞櫓ともいうが、江戸時代は、単に「多門」と呼ばれていたことから、正式には多門櫓と書くべきであり、多聞櫓と記されるようになったのは近代のこと。
真壁	しんかべ	柱が外に現れるように壁の仕上げ面が後退して設けられたもの。柱が露出している建築物の壁のこと。
大壁	おおかべ	柱が見えない建築物の壁のこと。
腰壁	こしかべ	壁の低い部分のこと。
入母屋	いりもや	伝統的な屋根形式の一つで、上部においては切妻造（長辺側から見て前後2方向に勾配をもつ）、下部においては寄棟造（前後左右四方向へ勾配をもつ）となる構造をいう。
破風	はふ	屋根の端部のこと。
千鳥破風	ちどりはふ	屋根面にのせた三角形の出窓で装飾や採光のために設けられるもの。
唐破風	からはふ	社寺建築に多様される装飾性の高い破風。軒先の一部を丸く持ち上げて造った軒唐破風が一般的。
鏡柱	かがみばしら	城門の扉の両側に立つ柱のこと。
袖柱	そでばしら	本柱の左右に立てた補強用の小柱。
控柱	ひかえばしら	鏡柱の後方に立つ柱のこと。
桁行	けたゆき	建物の梁に対して、直角方向の長さ。
梁間	はりま	建物の短手方向で、梁が掛けられる方向の長さ。
冠木	かぶき	門や鳥居などで、左右の柱の上部を貫く横木。

見附	みつげ	城門の外側に面する部分。
大戸	おおと	大きな戸のこと。
脇戸	わきど	大戸の脇にある戸のこと。通用門。
内法高	うちのりだか	敷居上端から、鴨居上端までの寸法。
楣	のき、ひさし	軒、庇のこと。
蹴放	けはなし	門の下に置かれる水平材、又は敷居上端。
根太	ねだ	床板を受ける横木のこと。
腕木	うでぎ	垂木や庇などを支えるために、柱または梁などから横に突き出させた横木のこと。
乗木	たるき	屋根板を支えるために、屋根天端から軒に架け渡す木のこと。
地覆	じふく	門・建物などの最下部に、地面に接して取り付ける横木のこと。
貫	ぬき	壁下地木工事において、柱間に打ち付ける部材のこと。
腰貫	こしぬき	建造物や門などのやや中央より下の腰の位置にある貫のこと。
内法貫	うちのりぬき	鴨居の上部に通っている貫のこと。
羽目板	はめいた	板の両サイドに凸凹の刻みを付けた板のこと。
拭板	ぬぐいいた	平滑な床板のこと。
棹縁	さおぶち	25ミリ角くらいの細い木材を平行に渡した天井で、天井面にみえる細木を棹縁という。
狭間	さま	天守や櫓、土塀に開けられた小さな窓のような穴のこと。鉄砲や矢を放つため設けられた城の防備における重要な仕掛け。
茅負	かやおい	軒の先端で、垂木の上に渡す横木
裏甲	うらごう	茅負の上に乗る化粧部材で近年、水切の役割として用いられるようになった部材のこと。
妻壁	つまかべ	切妻屋根の両端の三角に成った壁の部分のこと。
前包み	まえづつみ	入母屋造りの屋根において、切妻屋根の部分の下部が寄

		せ棟屋根へと切り替わる接線のこと。
懸魚	げぎよ	屋根の破風に下がる大きな飾りのこと。
六葉	ろくよう	6枚の葉を六角形に模様化した飾り金具のこと。懸魚の釘隠しなどに用いる。
武者走り	むしゃばしり	城壁や城のまわりの土塁内側に設けられた通路のこと。
方柱	ほうちゅう	四角形の柱のこと。
折置組	おりおきぐみ	柱の上に直接梁をのせ、その上に桁を架ける小屋組構造のこと。
入り隅	いりすみ	壁など二つの面が出合った所の内側の部分のこと。

◆年号一覧（関係分）

年号名	よみかた	解説	年号名	よみかた	解説
慶長	けいちょう	1596～1615	寛文	かんぶん	1661～1673
元和	げんな	1615～1624	延宝	えんぼう	1673～1681
寛永	かんえい	1624～1644	天和	てんな	1681～1684
正保	しょうほう	1644～1648	貞享	じょうきょう	1684～1688
慶安	けいあん	1648～1652	元禄	げんろく	1688～1704
承応	じょうおう	1652～1655	宝永	ほうえい	1704～1711
明暦	めいれき	1655～1658	正徳	しょうとく	1711～1716
万治	まんじ	1658～1661	享保	きょうほう	1716～1736

◆単位一覧

用語	よみかた	解説
尺	しゃく	明治時代の尺貫法で 1 尺 = (10/33)メートル (= 約 0.303 030 m = 303.030 mm) と定義されている。
寸	すん	明治時代の尺貫法で 1 寸 = (1/33)メートル (= 約 30.303 mm、尺の 10 分の 1) と定義されている。
間	けん	建物の柱の間隔が 1 間となるが、1 間 = 6 尺と扱う場合もあれば、1 間 = 6 尺 5 寸の場合もある。
丈	じょう	1 丈は 10 尺と定義されている。1 丈は約 3.0303 メートル = 3030.3 mm となる。

◆その他

用語	よみかた	解説
復元	ふくげん	文化財（建造物）の分野で、失われた建物を当時のように再現することを「復元」、改修等で形が変わっていたものを当初の姿に戻すことを「復原」という。
逡減率	ていげんりつ	上層に上がるにつれ、軒の出や建造物の横幅が順に小さくなっていく。これを逡減といい、初層に対する最上層の幅の割合のことを逡減率という。
矩手	きょしゅ	直角に曲がっていること。